

わたしたちが住んでいる地いきでは、今までにどのような自然災害が起こったのでしょうか。また、自然災害にそなえて、どのような取り組みをしているのでしょうか。



1909(明治42)年 姉川地震



1981(昭和56)年 五六豪雪



2017(平成29)年 姉川の増水



2021(令和3)年 草津市土砂災害

自然災害から命を守る

つかむ

滋賀県では、今までにどのような災害が起こったのでしょうか？

見方・考え方のポイント

いつ起こるかわからない災害にそなえて、どのようなことができるか考えよう。

滋賀県で起きた自然災害

わたしたちがくらしている日本では、一年を通してさまざまな自然災害が起きています。滋賀県でも、台風や豪雨、地震、豪雪などが発生し、人びとの生活を苦しめています。近年、異常気象による水害など、災害が起こりやすくなっています。



1953(昭和28)年の台風13号による水害で、ひざ上までしん水した様子



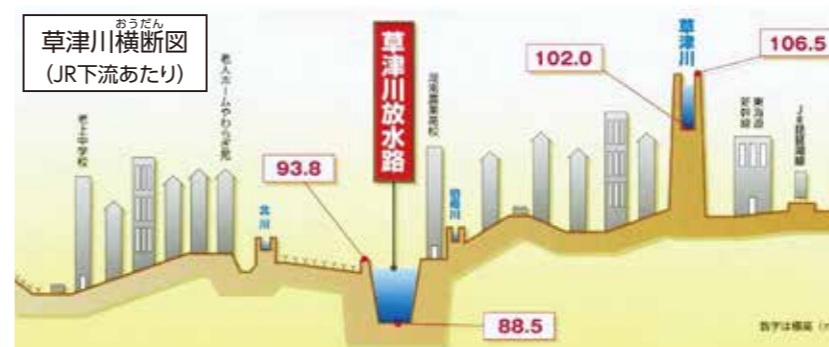
1938(昭和13)年、大雨で、ていぼうが切れた草津川を直す様子

水害をくり返す草津川

草津川はこれまでに、大雨がふるとていぼうから水があふれ、ていぼうが切れて大きな水害をもたらしてきました。台風でていぼうが切れ、たくさんの家が水につかってしまう大きな被害を受けたこともありました。草津川の近くに住む人びとは、安心してくらするように、草津川を新たに作りかえるという方法を考え、県に工事をしてほしいと願い出ました。県は、水害から町を守りたいという人びとの強い願いを受け入れ、国と協力して、工事を始めました。31年という長い年月をかけ、2002年ようやく工事が終わりました。こうして新しい草津川が完成し、長年にわたる人びとの願いがかないました。

年	できごと
1802(享和2)	草津川がはんらんし、大こう水がおきる。
1889(明治22)	東海道本線(今のJR琵琶湖線)が開通する。
1910(明治43)	ていぼうにさくらの木が植えられる。
1938(昭和13)	大雨でていぼうが切れる。
1953(昭和28)	台風13号による水害が起きる。
1966(昭和41)	豪雨により水害が起きる。
1971(昭和46)	草津川のつけかえじゅんぴが始まる。
1982(昭和57)	つけかえ工事が始まる。
2002(平成14)	新草津川が完成する。

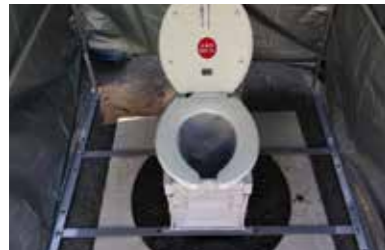
草津川の年表



川の底が低くなった新しい草津川<草津川放水路工事記録誌より>



↑ ひな人場所をしめす看板



↑ マンホールトイレ



↑ 防災びちく倉庫

防災びちく倉庫
 地いきの防災のそなえとして、毛布やトイレなど必要なものが保管されている。



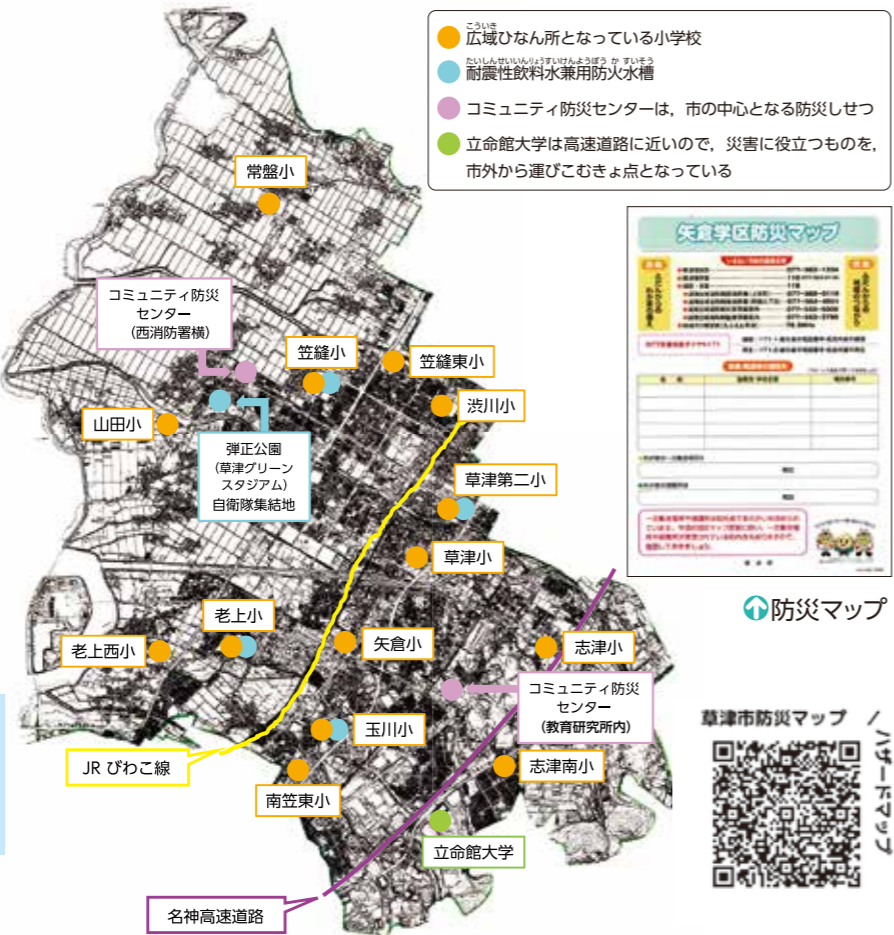
↑ 屋外スピーカー

調べる
 草津市での災害にそなえるための取り組みを調べましょう。

ぼうさい 防災にかかわる草津市の取り組み

滋賀県の西には大きな断層があり、地震災害が起きるおそれがあると言われています。また、台風や大雨、土砂くずれなどの自然災害が、いつ発生するかわかりません。わたしたちも、いつ起こるかわからない災害に対して、そなえておく（じゅんびしておく）ことがとても大切です。

草津市では、災害にそなえてひな人場所を決めたり、防災びちく倉庫や屋外スピーカーを整備したりしています。



↑ 防災マップ



草津市防災マップ / QRコード

草津市がおこなっている防災訓練

草津市防災訓練

草津市では、市民が『命を守る行動』を自分で考えてできるようになるために、年1回、草津市防災訓練を行い、町内会を中心に多くの方が訓練に参加しています。

〈訓練内容の例〉

- 学校などの広域ひな人所へのひな人訓練
- グラウンドでの放水訓練
- 救助救急訓練
- トイレ設置訓練
- 器具設置訓練・給水訓練
- かまどベンチでのたき出し訓練
- 給食配給訓練
- ひな人所運営訓練



↑ 地域住民も参加しての救助救急訓練

市内いっせい防災行動訓練（くさつシェイクアウト）

この訓練は、地震発生時に自らの命を守る訓練です。「その場 そのまま その時に」できる約1分間の簡単な訓練です。2014（平成26）年に県内で、はじめて取り組みました。

地震が起こったという設定で、市内いっせいによびかけの放送とサイレン音が鳴り、最初の1分間「まず低く、頭を守り、動かない」ということをみんなで行います。いざというときに、自分の命を守るためにどう動けばよいか、みんなで考えていくための訓練です。



↑ de愛ひろばでの訓練の様子

ぼうさい 防災計画

地震や風水害など、さまざまな災害が起きたときにどのように対応するかをあらかじめ決めたもの。

くんれん 防災訓練

地震や風水害など、さまざまな災害が起きたときにそなえて行われる訓練のこと。



だんボールを使ったひなん所宿はく体験



地いきの人と消防しょや消防団で協力して行う防災訓練



グラドン号での地震体験

地いきでの取り組み

草津市では、災害にそなえる地いきの取り組みをおうえんしています。自分の地いきでは、どんな取り組みをしているか調べてみましょう。

ひなん所宿はく体験に参加した人の話



だんボールベッドのねごこちはよかったけど、大きな災害が起こったら長い間になるから、大変だと感じました。防災訓練に参加して体験することは大切だと思いました。

実際に災害が起こったら、どうしたらよいか考えるために、授業で防災学習を進めています。地いきの防災の取り組みにも進んで参加しましょう。

災害が起こったら

まず、「自分の命を守る」ための行動を考えます。次に、まわりの人たちの命が安全かどうかをたしかめます。そして、正しい情報を受け取ること、その情報をもとにしてあわてずに行動することがとても大切になります。

家の人と、地震にそなえてできることを話し合ってみよう。

他県への支援

2024（令和6）年1月1日、石川県で能登半島地震とよばれる大きな災害が起こりました。

草津市は給水車（水を運んだり配ったりできる車）を出発させました。また、避難した人びとを助けるために職員を送りました。がけ崩れや壊れた建物などで道路が通れなくなる中、災害地への到着に大変な時間がかかりました。

現地で活動した職員の話



草津市の職員は、石川県能登町で活動をしました。

災害地では、地震で被害を受けた人も被害を受けていない人も、お互いに協力しながら避難所を運営していました。災害時は、協力し合うこと、助け合うことの大切さを強く感じました。



被害の様子



避難所の様子



草津市の職員の様子

表現する

災害にそなえて、自分たちに何ができるのかを考え、まとめましょう。

災害から命を守る取り組みをまとめる

学習をふりかえり、調べた取り組みについて話し合しましょう。また、草津市役所の防災に関するホームページを見たり、「草津市防災ハンドブック」を読んだりしながら、自分たちにもできることを考えましょう。

だれが	どのようなことができるか、どのような取り組みをしているか
自分や家族	草津市防災ハンドブック
住んでいる地いき	
市や県、国	滋賀県防災情報マップ
その他関係機関	